

令和８年度第１回島根県立少年自然の家運営委員会 議事要旨

- １ 開催日時 令和８年６月２６日（金）１３時３０分から１５時００分まで
- ２ 開催場所 島根県立少年自然の家 第１研修室
- ３ 出席者 石山委員、鍛冶委員、河村委員、小室委員、花田委員、安田委員
田中委員、山本委員、南口修委員、南口周哉委員、堀委員、山口委員（１２名）
（欠席委員：山下委員）
事務局職員８名

	意見・要望等	回 答
１	【資料で示された主要課題について】 研修者目標の１９，０００人の根拠を教えてください。 利用者満足度の調べ方を教えてください。昨年度の数値は、何％だったか。	県の創生計画に載せている数値である。近年の利用数に応じて高めに設定している。 利用者へのアンケートへの回答結果を集計して調べる。昨年度は９０％を超えていた。
２	【主催事業の参加者について】 「オーブンデー」「わくわく外遊びデー」のような当日参加のできる主催事業について「高校生以下は保護者同伴」となっているが、「高校生同士の参加」も可能にしたほうが、より参加しやすいのではないか。	「冒険の森」コースで迷うことがあるため、「保護者同伴」としている。今後の検討課題としたい。
３	【ボランティアスタッフ養成講座について】 子ども対象の養成講座であるが、地域の大人たちが子どもと関わる機会が減っているのを感じる。大人対象のボランティア養成講座を開催してもらえないか。 講座に参加した小中学生の活躍の場はあるか。 施設ボランティアとして高校生や大学生の参加はあるか。	よい視点をいただいた。今後考えてみたい。 (他の委員から)江津市では、今年度からコミュニティスクールがスタートしている。地域に開かれた学校教育を目指している。 「イモームズ」というボランティアクラブに入ってもらい、中学生になったら、主催事業に参加してもらっている。年齢が近く身近な存在である。 子どものみが参加する主催事業に県立大生に参加してもらっている。今後は、企画の場面からの参加を目指したい。
４	【利用状況について】 人口が減ってきているので、実数を年度比較してもあまり意味がないのではないか。 「社会生活」とは、どんな団体利用を指すのか。	国への報告が実数となっている。 公的機関の職員研修、文化体育団体研修など。
５	【危機管理について】 「危機対応訓練」が役に立った例があるか。	「冒険の森」コースでの救出訓練を行ったことにより、職員が参加者のもとに素早く移動できたことがある。
６	【閑散期の利用について】 通学合宿に大いに意味を感じている。実施を呼びかけているか。	現在２団体の利用があるが、こちらから募集はしていない。夜の世話をする方が少ないのが課題である。

運営委員の皆様からのその他のご意見
・会議場に生花が飾っており、「自然の家」らしさを感じる。地元の施設として、根付いている。主催事業の対象も様々で、工夫を感じる。 ・入所する団体の活動に施設ボランティア「イモームズ」を活用することはできないか、検討してみしてほしい。 ・ピザ釜ができたので、仲間を誘って利用してみたい。 ・ボルダリングが設置されたり、トランポリンが新しくなって魅力を感じている。ポッチャもやってみたら楽しかった。雨の日のプログラムも楽しそうである。 ・炊飯活動で、熱中症対策としてケビン棟を用意してもらったのがありがたかった。一方で、クマが近隣で目撃されたために、「冒険の森」が中止になったのが残念だった。 ・「子ども子育てサポートセンター」でも、主催事業等の広報ができるので知らせてほしい。